

海洋島

第7巻 第1号 (通巻47号)

東京都小笠原水産センター

2005年 6月 22日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

小笠原のイセエビが新種と認定され「アカイセエビ」と命名されました

小笠原で漁獲されるエビ類のうち最も漁獲量が多く「赤エビ」と呼ばれているイセエビは、甲羅(こうら)に鹿(か)の子模様があり沖縄などに生息するカノコイセエビとよく似ていますが、第1触覚(頭の前方に伸びる短い1対のひげ)の色が違うという違いがあります。このタイプのイセエビはごく少数ですが八丈島で採れることがあり、昭和37年頃、水産試験場八丈分場の高橋耿之介さんが当時のエビの専門家、東京水産大学の久保伊津男先生に標本を送って調べて頂いたところ、カノコイセエビとの回答をもらい、小笠原の赤エビもカノコイセエビであろうと考えられていました。

その後約35年の時を経て、近年、三重大学の関口秀夫先生とオーストラリアのジョージ先生は小笠原に来島してイセエビの調査をするとともに、インド洋、太平洋に生息するカノコイセエビの近縁種を詳細に比較検討し、小笠原の赤エビは従来報告されている他のどの種類とも違った形態・色彩を持つ新種であることを明らかにしました。この結果は本年6月の専門誌に発表され*1、学名はパニユリスブルネイフラジェリウムと命名されました。(標準和名は小笠原での呼び名を元に「アカイセエビ」とされました)。この報告によれば、アカイセエビの特徴は前から2番目の腹節背面の溝が側部の溝と連続していないこと(図1)、第1触覚鞭状部(短いひげの途中から2本に分かれたムチのような部分)に縞模様がなく褐色をしていることなどで、学名ブルネイフラジェリウムは後者の特徴を表しています。

一方、小笠原では少数ですが、アカイセエビに似ていながら、短いひげに縞模様のあるイセエビがとれ、シラヒゲエビと呼んでいます。このエビについては既にパニユリス ロンギペス ビスピノウサスとして報告された種であることが分かっており、標準和名は小笠原での呼び名そのままに「シラヒゲ

エビ」とされています。

アカイセエビは小笠原に分布の中心があることから、小笠原で生まれた幼生が長い浮遊期間を経て小笠原に戻ってくることにより資源が維持されていると考えられます。言い換えれば、小笠原で親のエビを採りすぎると、資源はどんどん減少していくことになり、資源管理の重要性を改めて認識させられました。なお、水産センターの調査では漁協に水揚げされるアカイセエビに小型化の兆候はなく、今のところ資源は維持されています。

*1 Sekiguchi, H.; George, R. W. 2005: Description of *Panulirus brunneiflagellum* new species with notes on its biology, evolution, and fisheries. *New Zealand J. Mar. Freshwater Res.* Vol. 39.

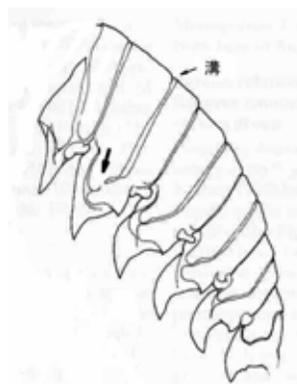


図1 アカイセエビ腹部の溝
Sekiguchi 他(2005)を改変

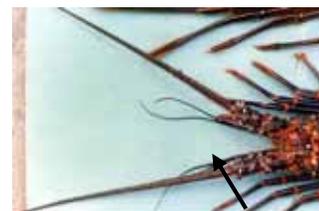


図2 アカイセエビ
第1触覚に縞模様なし



図3 シラヒゲエビ
第1触覚に縞模様